

枕草子^{まくらのそうし}

清少納言^{せいせうなごん}



にくきもの

にくきもの。急ぐことある折^{をり}に来て、長言^{ながこと}するまらうど。あなづり
やすき人ならば、「のちに。」とてもやりつべけれど、心恥^{こは}づかしき人、
いとにくくむつかし。

1 まらうど 客。

2 心恥づかしき人 こちらが気
恥ずかしくなるような立派な
人。

硯^{すずり}に髪^{かみ}の入^いりてすられたる。また、墨^{すみ}の中に、石のきしきしときし

み鳴りたる。

ねぶたしと思ひて臥^ふしたるに、蚊^かの細声にわびしげに名^なのりて、顔
のほどに飛び歩^{あり}く。羽風さへその身のほどにあるこそいとにくけれ。

3 名のりて 「名のる」は自分
の名を相手に知らせることだ
が、ここでは、蚊の羽音を擬
人的に表現している。

わが知る人にてある人の、はやう見し女のことほめ言ひ出^いでなどす
るも、ほど経たることなれど、なほにくし。まして、さしあたりたら
むこそ思ひやられる。されど、なかなかさしもあらぬなどもありかし。